

第44号
 発行日：平成20年10月20日
 発行所：
 東京青山同窓会事務局
 〒107-0062
 港区南青山3-18-4-304
 (有)ジェイ・クラブ内
 TEL. 03-3423-3591
 発行者 池 一

東京会報

東京青山同窓会

- 東京青山同窓会年間維持費 -
 1口 / 1,000円 2口以上(年間)
 会計幹事：佐藤 茂 (77回)
 振込先：三菱東京UFJ銀行・
 江戸川橋支店
 普 1170247 東京青山同窓会
 郵便振込口座 00150-9-4074

平成20年 東京青山同窓会 新人歓迎会・講演会 報告

平成20年6月20日(金) 於：ANAインターコンチネンタルホテル東京 網千千春 113回

2008年度新人歓迎会は、116回卒の新人19名を迎え、ANAインターコンチネンタルホテル東京にて開催されました。

栗林貞一会長(59回)のご挨拶に始まり、新潟からお越しの風間士郎青山同窓会副会長(64回)、渡辺国夫青山同窓会監事(72回)よりご挨拶をいただき、卒業生の担任をされた江川直人先生から最近の校内の様子をご紹介いただきました。また、篠田昭市長(75回)からは新潟の近況を紹介していただきました。お忙しい中、遠路お越し頂きありがとうございました。

続いて歴史小説家の火坂雅志氏(83回)による講演に移りました。火坂氏の代表作『天地人』は、新潟を舞台に直江兼統の生涯を描いたもので、来年度

のNHK大河ドラマの原作に決定しています。講演では、この作品を書くにあたっての思いや「義」と「愛」を重んじた智将直江兼統の生き様についてお話して頂きました。「武士道とは、弱きを助け強きを挫く。」私利私欲を捨て人との信義を大切に、周囲への思いやりをもち、権力者や横暴な人を恐れずに異を唱える、武士道が現在の日本にも必要なのではないか、というメッセージをいただきました。大変興味深いお話をありがとうございました。

新人コールでは、吉田丈夫先輩(112回)のコールに19名の新人が応えました。新人を代表して真島徹也くんが返礼の辞を述べ、今後の決意を語りました。

司会が池一幹事長(74回)から島津孝学年幹事(84回)に引き継がれ、第二部の懇親会が小林元雄副会長(61回)の乾杯で幕を開けました。久しぶりの同期の皆との再会、先輩後輩との交流に和やかな空気が流れていました。歓談中には、佐藤信秋参議院議員(74回)と鷲尾英一郎衆議院議員(103回)からの祝電が紹介されました。会場では火坂氏のサイン入り本の販売も行われ、多くの人が買い求めていました。

楽しい時間はあっという間で校歌斉唱の時間となりました。はじめに富所強哉先輩(46回)のお言葉を頂き、旧制校歌(島津孝氏・84回)、新制校歌(山路善貴くん・116回)、応援歌(真島徹夜くん、大矢光くん、池田太陽くん・116回)と続き、大きな声が会場中に響き渡りました。最後に園城英二学年幹事(59回)の閉会の辞で大盛況の2008年度新人歓迎会は幕を閉じました。



会長挨拶

栗林 貞一 59回

北京五輪雑感



東京青山同窓会の皆さん今日は。お元気で活躍中のことと思います。この夏は北京五輪が新聞・テレビを賑わせました。204カ国・地域の参加という史上最多国の五輪でした。日本からも選

手・役員576人が参加しました。どうしてそんなに多いのかなとも思いますが、選手は一生懸命頑張ったし、勝つべき人が勝ち、負けた人はそれなりの理由があったということでしょう。それはともかく大変に話題の多い五輪でした。聖火リレーに対する度重なる抗議・妨害とその背景にあるチベット・新疆などの人権問題と反政府暴動。強制措置による平穏の維持。報道陣の取材規制。豪華な開会式とそれにまつわるいろいろな話題—歌を歌った口パクの少女、花火などの偽装演出。きらびやかな人海戦術のショー。50余の少数民族のそれぞれの衣装による踊りの中身の多くは漢族だということ。これは国家優先と人権軽視により国威発揚

を狙った大芝居だと思わざるを得ません。平和の祭典である五輪を使ってナショナリズムを高め、中華思想を内外に誇示したかったのでしょうか。しかし隠しても隠し切れない中国の国内事情を世界にさらけ出してしまいました。IOCのロゲ会長は「北京五輪の遺産は五輪を通じ中国が世界の視線にさらされたこと、中国が世界を知り、世界が中国を知ったことだ。」とっています。メディアは選手の活躍は大きく伝えながらも、環境問題や人権問題などで改善の兆候はほとんどないとし、次のロンドン五輪はもっとスリム化したものすべきだとしています。

われわれ青山同窓会の皆さんはこれからも中国やアジアで活躍される方も多いと思います。その国の実態や国民性などをよく見極めつつ活躍していただきたいと思います。

64回生東京同期会 今年もやりました

東京同期会事務局 坂井敬・川崎明

今年も5月31日(土)新宿の東京厚生年金会館で開催しました。出席は女性も含めて41名ほぼ例年と同じ状況。今年には新潟の同期会からは都合が悪くてどなたも出席頂けませんでした。5年前にオーストラリアへ移住されていた高見浩さんが日本に戻られ久しぶりの出席、さらに滋賀県大津から清野担さんが初参加、その他3名の方が初参加で旧交をあたためました。この年1回の東京同期会は例年1月に新年会をかねて世話役の方を中心として有志の方々が御徒町の吉池ビルの放心亭に集まって、

その年の時期・場所・内容などの下打合せを行ない、それにもとづいて事務局がスタートしております。

今回は2つの大きなテーマを持ちました。

(1) 現役の方でも出席しやすい(土)を開催日にすること

(2) ただ会場内を往き来談笑するだけでなく全員がマイクで1分間スピーチをすること

結果は(1)については期待した願いは得られなかったように思われましたが、これからも一人でも多くの人に参加頂け

るように(土)でとれば会場をおさえないと思います。

(2)については事前PRが不足かつ私共進行の下手際もあり、この日のために会場使用時間を3時間に延長していたにもかかわらず時間オーバーしそうになりました。

嬉しいことは今年に入ってから同期生の訃報に接しないことです。私達には目標となる61回生という先輩がおります。東京青山同窓会はもちろんゴルフなどでもいつも中心になって活躍されているのが61回の先輩方で、その明るい若々しい姿はうらやましい限りです。

私たち3年後輩も健康に気をつけながら先輩に負けないように頑張っていきたいと思います。



(A) 土岐先生 (B) 川島先生 (C) 池先生 (D) 松田先生 (E) 本間先生 (F) 阿部先生・大黒先生 (G) 渡辺先生

東京青山75期納涼会

石塚文雄

東京青山75期納涼会が7月30日(水)の猛暑の夜に市谷の「祭り屋」という居酒屋風ステーキハウスで開催された。

東京青山75期の同期会は10数年前から納涼会と忘年会の形で年2回開催されてきた。“継続は力なり!”というが、これまで1回も欠かさず開催されてきたことは東京青山75期生の団結の強さなのではないでしょうか。これも偏に、毎回



幹事の労を執られている佐藤邦雄、白鳥十三、曾我正男の3氏の御尽力の賜物です。この場を借りて感謝申し上げます。

今回の参加人数は29名(内女性4名)と、いつもの会よりも多くの同期生が参加しました。今年は、我々75期生にとって特別な年のせいでしょうか。75期生は昭和23年4月から24年3月生まれです。我々はこれから続々と還暦を迎えることとなります。7月末時点で既に還暦を迎えた方も何人かいたことと思います(斯く言う私もそうですが)。

会は6時過ぎに始まりましたが、私は仕事の都合で7時半出席となりました。既に全員がホロ酔い気分で、しかも料理は殆ど食べ尽くされていました。仕方なく空きっ腹にワインをたくさん流し込んでやりました。

同期の面々は、頭が薄くなりメタボ体型になったとは言え、肌の色つやは良く(アルコールでかかっていた為かも?)、特に女性陣は見た目40代半ば(胡麻すりではありません)と若さと美貌を堅持していました。

同期とは言え、既に定年を迎えリタイヤされた方、これから定年を迎える方、新しい職場へ転職、天下りされている方と色々な人が集い様々な人生模様が語り合われたことと思います。

和気あいあいの歓談の時間も、あっという間に過ぎ、最後に全員で記念写真を撮影しました。忘年会での再会を誓い、9時半に散会となりました。

84回同期会報告

秋庭 紀子

8月16日土曜、三十年ぶりに万代橋を歩いて渡った。青々とした堤防に柳が揺れる。新潟港が光にかすむ。今日は84回生同期会当日。故郷の美しさに心震わせながらも、新潟グランドホテルを前にふと足が重くなっている。大体私は何組だったんだろう? もし、誰も思い出せなかったらどうしよう。

指定のテーブルには、見覚えのない顔、顔。所在なさにため息が出る。恐る恐る近づいたそのとき、知らない顔が振り向いて、突然、昔のままの笑顔に変わる。うわー、ウソ。変わらないねえ。あっという間に30年をまたいで思い出話が始まる。

写真室での全員記念撮影「女子は前へ」の声が掛かる。久しぶりに聞く「女子」という響きの楽しさ。これって同期会の

醍醐味かしら?

クラスごとにテーブルに別れ、担任の先生方のスピーチに爆笑。大人同士のトークに先生方がぐっと近くなった気がする。

丈夫と海老茶。声が掛かった瞬間に全員の立ち姿がぴたりと決まる。懐かしのエールに会場がどよめく。母校では、いまや女子の数が増えて『丈夫』を歌う声が黄色く響くとか。「女なのに『丈夫』を歌って恥じないその精神構造はどうなってるの?」酔った勢いで絡まれたけど、いいジャン。だって私『丈夫』好き

だもん。

あっちのテーブル、こっちのテーブル、振り向くたびに思い出がこぼれだす。えっ。ナポレオン? お金を出し合っただけでアンパンを下級生に奢った? まさか?!

どうしてあの時代をすっかり忘れていたんだろう。この日集まった66名はあの時代の価値を知っているから来たんだね。それもこれも新潟在住の仲間たちが膨大な準備をしてくれたからこそ。おかげで2年ごとの同期会はしっかり定着、私たち84会(ハチヨンカイ)メンバーは早くも再来年の再会を心待ちにしている。



トピックス 白鳥十三氏(75回)大作に挑む

今回の大作は新潟のナミックスの依頼で、もと北陸塗料といった会社です。今は会長に退いた小田嶋壽一氏(64回)が私の絵を気に入ってくれて、東港工業団地に建てる研究棟(この建設に関しては、副知事になった同期森邦雄君の尽力があります)のエントランスロビーに飾ることになります。この会社は、半導体の絶縁材および導電材で技術があり世界各国から需要があるトップ企業です。

絵画の納期は10月28日で大きさは4.0×1.5m、テーマは会長の希望で新潟の平野から山並みを臨むふるさとの風景です。私の趣味で朝焼けの風景にしました。絵の撮影は奥村基氏(85回)に頼み、28日に設置と同時に撮影します。9月現在、あと少しのところですが、先般、現地を会長と視察してきました。ふるさとの情感を感じていただければと念じています。

(白鳥十三氏:談)

寄稿

モンゴル国立大学着任報告

田崎 正巳 84回

今、この原稿はモンゴルのウランバートルで書いています。この秋からモンゴル国立大学という日本の東大のような大学・大学院で、教授として仕事をするためにやってきました。担当するのは、経営やビジネスです。

ここで私の今までの歩みを少しお話しします。私は大学卒業後、普通にサラリーマンとして味の素という会社に就職しました。その後、ポストン・コンサルティング・グループとATカーニーという経営コンサルティング会社勤務、プライベートエクイティ会社(PE、企業を買収、経営、売却する事業)の設立・経営をして参りました。現在は、自分のコンサルティング会社をベースに活動しております。

過去2年間はグロービスという民間のビジネススクールを正式な大学院にするお手伝いをする中、自分自身でも大学教授及び大学院の研究科長という職をやってきました。幸い大学院化も首尾よく終えましたので、2年間の研究科長職をこの春に辞して、また何か新しいことを始めようと思っておりました。この頃、モンゴル側で私がこの春に研究科長を辞したことを聞き、モンゴル国立大学へ教授として来てほしいという話が来たわけです。

なぜ、モンゴルか?多くの方々に聞かれました。以下、私の思うところを書きます。

「明治維新?」

今のモンゴルは日本の第二次大戦後や明治維新後に例えられる状態なのではないかと思っています。モンゴルは1992年に社会主義から資本主義、民主主義へ転換したばかりの「若い国」です。

この頃までの典型的なエリートは、モンゴル国立大学を優秀な成績で卒業し、モスクワ大学へ留学し、ソ連式の思想にたっぷり染まって帰国した人々が国を

運営していました。そのエリートらは、官僚、政治家、国営企業経営者そして大学教授などになったのです。

こうしたエリート層は、資本主義化で一気に社会の変化に飲み込まれてしまいました。明治維新後の閣僚メンバーを見ても、徳川だとか旗本だとか過去の栄光はどうでも良いという布陣だったのと同じです。

モンゴル国立大学の場合も同じような状況だったようです。特に経済学部では、いつまでも「マルクスだ、レーニンだ」なんて言っている教授では、資本主義の教育なんてできません。今回私を招いてくださった経済学部長は、なんと37歳で学部長に就任したそうです。そして、42歳の今年、学長になる有力候補です。

彼に限らずモンゴルの経営者も含め、指導層の人たちは皆若いのです。これから国を創っていくんだ、という気概に溢れています。モンゴルで一番大きな財閥グループといわれている企業グループは、誕生してからわずか15年程度です。そういう人たちが、これから社会を変えていこう、新しい人材を創っていこうという国を目の前で見ることが出来る機会はそうはないだろうと思ったのが、私への大きなモチベーションとなりました。

また、この学部長さんはとても謙虚で、「この国の若い学生に、是非あなたのいろんな経験したことや考え方を伝えてあげて欲しいのです。」なんて言われてしまうと、「誰かにこうして頼まれてるうちが華だな」と思ったというもあります。

「資源国」

ここへきて、資源のことが新聞に載らない日がないと思われるほど問題化され、注目されています。モンゴルは日本の約4倍の国土に、わずか250万人と新

潟程度程度の人口しかありません。

主要産業は、国内的には今も牧畜(昔ながらの遊牧民)が大きいです。ですが、この国にはレアメタルを始めとする鉱山資源の埋蔵が多いのです。モリブデンなどと言われても全然ピンときませんが、液晶パネルの生産にも関係していると聞くと、何やら日本にも重要そうです。他にも、ウラン、金、銅、石炭などなど。

モンゴルは現在一人当たりGDPがわずか1,400ドルと日本(35,000ドルくらい)の20~30分の1程度ですが、これらの資源開発と人口が少ないことを合わせると、ここ数年で急激な発展をする可能性を秘めているような気がします。

経営コンサルタントとして、そういう経済発展や変容の現場に立ち会ってみたいという気持ちが大きいのも、モンゴルへ行こうというモチベーションの一つです。

残念ながら、私の授業は10月から始まりますので、現時点ではまだ第1回目の授業はやっていません。対象は、大学生と大学院生です。言葉も十分に伝わらない(こっちは下手、彼らも英語は勉強しただけ)中で、何ができるのか、これは本当に自分自身へのチャレンジでもあり、人間力が試されると思っています。

いつかまた機会をいただければ、モンゴルの学生気質などについてご報告しようと思っています。

最後に私のブログを紹介させていただきます。

◇モンゴルでの日常をお伝えする「モンゴル 徒然日記」<http://plaza.rakuten.co.jp/mongolmasami/>

◇経営コンサルタントとしていろんなテーマで私なりの見方や考え方を発信していく「徒然散文記」http://blogs.yahoo.co.jp/uncle_summy

※遙か遠いモンゴルの地で、青山同窓生からコメントいただけたら大変励みになります。



燃えるような大地



草原のラクダ



建設中のビル



大学生たち

寄稿 『天地人』に染まった今年の私の夏

～火坂雅志著『天地人』を読んで～ 84回星野紹英

帰省の列車で『天地人』を読み進めていた私は、「上杉景勝、会津お国替え」の場面を、会津若松に向かう車中で迎えた。何という偶然、何というタイミングの良さ、まさに「天の時」を感じ、旅情は一層掻き立てられた…。

* * *

<発端>

6月の東京青山同窓会新人歓迎会で、来年のNHK大河ドラマの原作『天地人』の筆者、同窓で私の1年先輩の火坂雅志氏が講演。本書は、織豊期～江戸初期の激動期を上杉謙信の養継子景勝とともに生き抜いた直江兼統を主人公としたもの。予てより歴史に興味をもつ私は、会場で筆者直筆のサイン本を購入。本書の題名の由来は、謙信が目指した「天の時、地の利、人の和を備えた無敵の大將」。また、この三条件は事を成す(天下を取る)ために不可欠なものとも言われる。

<愛と義>

講演で筆者は、直江兼統が「愛」と「義」を重んじていたことを強調していた。私は、本書を読み、この二つに加えて「信」の文字も強く感じた。

三角形の中心に位置する兼統、そこから右下に「愛」の文字で結ばれた領民や家臣団家族、左下には「義」の文字で堅く団結した家臣団、そして上に伸びるは「信」の文字に厚く裏打ちされた領主景勝。そんな上杉家のトライアングルが浮かび上がる。

不詳私は、僅か数年前から「愛」には二つの意味があることを実感している。一つは「恋愛」の愛。好いた惚れた、愛し恋しの「愛」である。もう一つは「愛情」の愛。家族愛、師弟愛、郷土愛の「愛」である。本書のテーマ「愛」はもちろん後者の意味。本書には兼統を巡って三人の女性が登場するが、決して前者の意味の「愛」がテーマではない。そして、「あとがき」に書かれていた筆者の中学野球部でのエピソードに登場する「愛」も、野球で最も大切なチームワークに繋がる、後者の意味での「愛」ならば、未だに野球キチガイの私にとっても非常によく納得できる。

<見所>

ところで、今年の私の帰省は、時間的な余裕もあり、郡山經由磐越西線で新潟に向かうことにした。車中の友に選んだのは、まだ手つかずだった『天地人』の下巻。1598年の景勝の越後春日山90万石から会津若松120万石への加増移封の場面が、丁度私の郡山での磐越西線への乗り換え

に重なったのである。方向的には逆ではあるが、あまりの偶然に胸は高鳴った。思えば、私が本書に出会ったのは同窓会が縁であり、またこの時の「偶然」にも「地の利」が絡んでいるといえるだろう。

本書を振り返って、最大のクライマックスはどこだろう、と考えてみる。謙信と差しつ差されつ一献を傾け薫陶を受けた場面、後継ぎ争いの際の桑取衆との単身直談判、織田勢に三方から攻め立てられた上杉家滅亡の危機を迎えた場面、朝鮮出兵前の石田三成との膝ツメ談義、「関ヶ原」でガラ空きになった江戸攻め是非の決断、120万石から40万石へと一気に三分の一に減封される米沢転封、…。沢山あり過ぎて絞りきれない。それだけ本書には見所が多く、また兼統の人生もそれだけ波乱に富んでいたということか。今これらの場面を並べてみて改めて感じるのだが、攻めは「義」の精神で、守りは「愛」のところで、ということになるのだろうか。これらの見所とは別の意味で、最も感銘を受けたのは最後の場面。跡取り息子に先立たれた兼統が死を前にして採った選択肢。これが兼統最大の「愛」であり、幕末まで続いた米沢藩270年の人柱にもなったというのは言い過ぎだろうか。

<上田の庄>

旅好きの、そして感化されやすい私は、本書を読んで思い立ち、早速「天地人の里」魚沼地方を歴史ウォークした。

皮切りは景勝の生地、樺澤城址。スタート地点は上越線大沢駅、越後湯沢から二つ長岡寄りの駅。歩き始めて直ぐ、当時の武家屋敷跡などを示す標柱の多さに驚かされた。「天地人ブームで」と思ったら既に6年前に整備されていたらしい。標柱脇には必ず『天地人』の薄青の幟。こちらは「ブーム」で作った幟で、目印代わりだろう。本丸址は、中世の山城特有の傾斜のきつい坂道、今は獣道のような踏み跡を上下しながら登る丘の上にある。

樺澤地区に別れを告げ次の目的地雲洞庵に向かう。左右の田んぼにはこうべを垂れた稲穂が黄金色に光り輝く。この辺りは400年前上田の庄と呼ばれ、ここを根拠地にした「上田衆」は上杉家屈指の最強武



『天地人』
作者
火坂雅志氏
(83回)

士軍団を誇ったという。今は「日本一うまい米」の代名詞魚沼産コシヒカリの産地。400年の時を隔てたこの二つの勇名が、根源部分でどこか繋がっている、ふとそんな気がした。

樺澤から約1時間で雲洞庵。景勝、兼統がともに幼少の頃学んだという金城山山裾の禅寺。「禪と座禅は異なる…」まさしく禅問答のような案内放送を聞きながら、ここでもゆっくり一時間分の拝観。

最後の目的地は標高634mの坂戸山。景勝の実家で、兼統の父が仕えた上田長尾家の居城坂戸城があったところ。雲洞庵方面からの登り口は寺ヶ鼻口。少しゆっくりし過ぎたため、当初計画より2時間遅れのアタック開始。遠くから雷も鳴り始めている。ここで感じた僅かな「焦り」、気にも留めなかったつもりだが、「たかが600m」という侮った気持ちと一緒に無理を呼び、時間とともに雪だるま式に「疲労」が倍加し、結局坂戸城址のある山頂を目前にして、どうにも足が進まなくなった。「宿題」を残して下山を決意。挫折感とともに正面登山道の薬師尾根を下りる。

ピツリ麓の舗装道に下り着いたところで、雨粒が落ち始め、瞬く間に土砂降りになる。「下山決意」は正解だったのか?と思うと同時に目に飛び込んだ光景は、白テントの中に溢れ出さんばかりの数の、あまり若くない男女の人だかり。

「冷たいものでも…」の声に誘われるまま、テントに入り込みご馳走になる。聞くと、オバちゃん連中は、週末の度にテントを張り観光客に飲み物・パンフレットを振る舞うボランティア。オトコ連中は、「来年の本番」に向けてボランティアガイド養成のための勉強登山を終えたところだという。地元は燃えている。そして時代を越えて受け継がれている上田衆の「人の和」を見た思いがした。

現国、日本史、地理、体育。豪華取り合わせとなった今年の私の夏休み自由研究は、以上で終了。



東京から新潟市を応援しよう!

新潟市サポーターズ倶楽部が
会員を募集しています。

■申し込み先■

【新潟市東京事務所】

102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1

日本都市センター会館9階

TEL.03-5216-5133 FAX.03-5216-5134

ncsc@niigata-city-sc.jp

HPから入会できます。

http://niigata-city-sc.jp/

平成20年度 総会のご案内

日時

平成 20 年 11 月 14 日 (金)
受付開始：午後 6 時
開会：午後 6 時 30 分

会費

一般：8,000円
女性：6,000円
大学生：3,000円

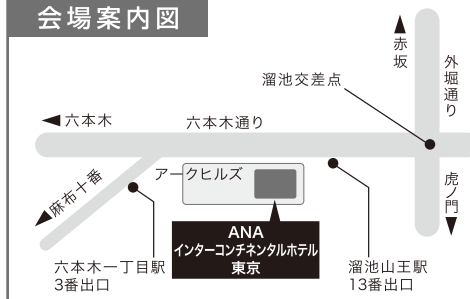
会場

ANAインターコンチネンタルホテル東京
港区赤坂1-12-33 TEL.03-3505-1111(代)

プログラム

- ◇総会議事◇
会務報告・会計報告など
- ◇懇親会◇
着席buffet

会場案内図



**卒回別
出席数コンテスト有り！
お誘い合わせの上
ご参集下さい！！**



予告 次年度の新人歓迎会は平成 21 年 6 月 19 日 (金) の予定です。

2008 新人歓迎会・講演会 PHOTO ALBUM

2008.6.20 fri.
ANA Intercontinental - Tokyo



住所リスト出力サービス

当同窓会では、皆さんからの情報を元に常に会員の住所録をコンピューターにて更新しております。
「同期会をやってみたくけれど、皆の住所がわからない…。アイツは今どうしているんだろう？」などとお思いの方は事務局までお尋ね下さい。
学年毎のリストを出力してお届けいたします。
ご希望の卒業回数を明記し、代表者の連絡先・送付先を書き添えて事務局宛 FAX. をお送りください。

FAX. 03-3423-1692 (日下部・82回)

■住所リスト 1 学年 / 3000 円■

■ 訃報 ■ H20/5月～H20/9月の期間に事務局にお知らせいただいた方々です。

笹川正男 (35回 H20.4.27)	斎藤 茂 (58回 H20.5.18)
関 昇 (36回 H20.1.18)	鈴木章司 (60回 H20.3.5)
丸山岩三 (38回 H19.10.24)	風間徹治 (61回 H19.4.1)
高橋正蔵 (41回 H20.2.28)	林 嵩 (63回 H20.2.27)
野澤正男 (43回 H20.9.5)	木下紀昭 (67回 H20.1.14)
五十嵐孝三 (45回 逝去日不知)	佐藤純エ (67回 H20.4.16)
涌井義郎 (49回 H18.5.9)	山田 修 (70回 H20.5.20)
山田英世 (50回 逝去日不知)	野村典子 (72回 H20.6.19)
浅見信夫 (51回 逝去日不知)	石川文子 (75回 逝去日不知)
湯木昭二郎 (52回 H20.4.26)	鈴木茂夫 (76回 H20.1.29)
池田成義 (58回 逝去日不知)	楠谷文隆 (80回 H20.6.28)

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

偶数月第二火曜日の会

平成 20 年度 の 予 定
10/14・12/9 (兼忘年会)

平成 21 年度 の 予 定
2/10・4/14・6/9

毎 回 定 時 19 時 以 上

◇日本海庄や(赤坂店) 港区赤坂 3-13-7

Tel:03-3586-5003

場 所 も 時 間 も 固 定 で す。

ふ ら り と お 立 ち 寄 り ください。

同窓会の HP

◇青山同窓会◇

http://www.geocities.jp/niigata_aoyama/

◇東京青山同窓会◇

<http://www.tokyo-aoyama.org/>

平成19年度 (H19.10.1~H20.9.30) 年会費納入者一覧

Table listing members of the Tokyo Aoyama Alumni Association for the 19th year (Heisei 19). The table is organized in columns and includes member names, their addresses, and their respective membership numbers. The list is extensive, covering members from various backgrounds and locations.

以上740名